

# 多才で風流を極めた藩主

## 親子2代続いた茶人の才

初代藩主・有馬豊氏の父で、久留米藩祖の則頼は、豊臣秀吉の身近に仕えた「相伴衆」に選ばれるほど優秀で、茶人でもありました。則頼の茶席に呼ばれた秀吉は、茶入れや面軸などの珍しい品々を贈っています。父に影響を受けた豊氏も、千利休の弟子「利休十哲」に数えられ、徳川家康から茶入れを贈られるほど、茶人としても一流でした。反面、豊氏は酒を好まず、藩士を採用する時は、大杯に酒を飲ませ、一気飲みする者は採用しなかったと言われています。

久留米藩は、幕末まで絵師を召し抱えるなど、大名家の格式にふさわしい文化を継承していきます。中でも6代藩主・則維に仕えた三谷永伯は、梅林寺やその周辺の景観を三幅対の絵画として描き、当時の様子を今に伝えています。

## 茶道界の名陶・柳原焼

藩内の文化が、最も隆盛を極めたのは、9代藩主・有馬頼徳の時代でした。茶道は「月船」、書は「水鷗」、絵は「華山」の号で、諸芸に通じていた頼徳は、城内の三ノ丸の東側（現在の久留米大学医学部周辺）に「柳原園」を造ります。その面積は、三町八反で現在の3万7686㎡。園内にある作業場「陶工軒」で焼かれた焼物は、「柳原焼」と呼ばれました。

国内外の名陶を手本にした柳原焼は、幕府や各藩主への贈答品として制作され、市場に出回ることはありませんでした。柳原焼は、茶陶としての評価が高まり、特に、頼徳が自ら焼いた茶碗は、現代の茶道界でも珍重されています。

◎文化財保護課（☎0942・309225、FAX0942・309714）



▲久留米藩お抱え絵師・三谷永伯筆の「源平合戦図屏風」（有馬家蔵）



▶ 12月11日(土)から来年4月4日(月)まで、有馬記念館で開催。茶道や詩歌に優れた大名有馬家や藩領文化を紹介

◀ 9代藩主・有馬頼徳が自ら制作した「柳原焼黄釉肩衝茶入」（久留米市教育委員会蔵）



- 久留米歴代藩主**
- 初代 豊氏 とようじ
  - 二代 忠頼 ただより
  - 三代 頼利 よりとし
  - 四代 頼元 よリモト
  - 五代 頼旨 よりむね
  - 六代 則維 のりふさ
  - 七代 頼僮 よりゆき
  - 八代 頼貴 よりたか
  - 九代 頼徳 よりのり
  - 十代 頼永 よりとお
  - 十一代 頼成 よりしげ
- は今回のモノ語りと関わる藩主